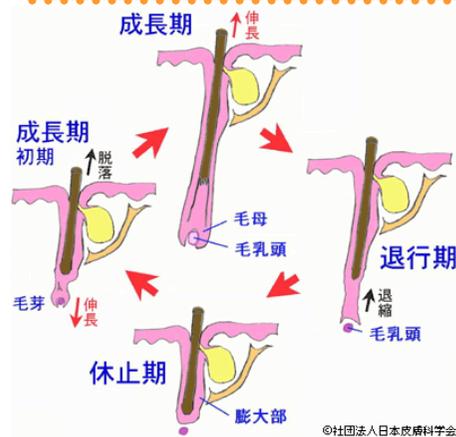


抜け毛や薄毛などの脱毛症で悩んでいる人も多いかと思えます。脱毛症は原因や症状によって様々な種類に分けられますが、今回はAGA（男性型脱毛症）と円形脱毛症についてご紹介します。

●脱毛症とはどんな病気？

「脱毛」というのはとても曖昧な意味の言葉です。たいていは「毛が抜けて毛の数が少なくなる状態」（毛の脱落）なのですが、そうでない状態も「脱毛」と呼んでいます。たとえば、男性型脱毛症のような毛が細くなることで頭髪の量が減る状態も脱毛と呼ばれています。

毛が抜けて数が少なくなる脱毛症としては、「円形脱毛症」が代表的で、その他にもいろいろなものがあります。原因はそれぞれ違いますので、当然、脱毛状態に対する治療や対応も異なります。



<毛の生えかわりとは>

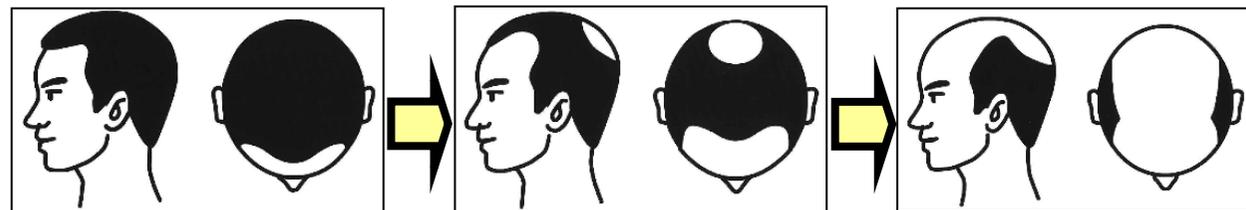
髪は、1日に約100本が抜ける一方で、約100本が再生して、ほぼ一定の毛の数が保たれています。また、頭の毛の割合では、約85～90%が成長期の毛で、10%弱が休止期の毛です。頭髪に関しては、健康な状態でも、この程度の数が抜け落ちていたり、中年～老年となるにつれて細い毛に置き換わり、全体として髪が薄くなることなどを理解しておくことが大切です。

●髪質や濃さの違いは？

頭髪の毛は約10万本あり、毛の太さは、小児では細い毛が多く、思春期から太くなり、青年以後、歳をとるに従って細く短い毛の割合が多くなります。ですから、40、50、60歳となれば、それなりに20歳のときと比べて髪が減ったように見えるのは自然なことです。ただし、同じ年齢でも個人差や人種差があるといわれており、健康な人では、食べ物の影響は少ないとされています。

●AGA（男性型脱毛症）とは

男性型脱毛症では、思春期以後の男性で早いと20歳代前半から頭髪が薄くなります。とくに頭頂～前頭の毛が軟毛になります。（下図）いわゆる若禿の状態です。年齢とともに進行しますが、日本人成人男性の約3人に1人が男性型脱毛症になります。



●AGAの発症機序と男性ホルモン

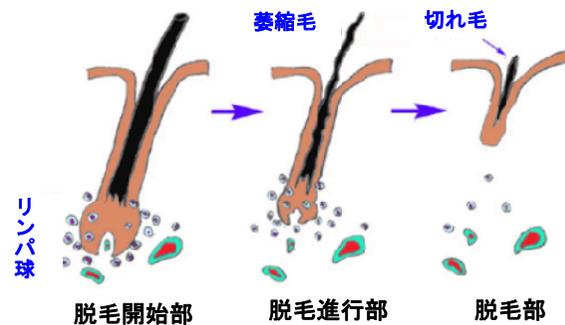
思春期に体の中に増えるアンドロゲン（男性ホルモン）の作用によるものです。アンドロゲンが作用すると、頭の毛は薄くなり（軟毛化）、ひげ、胸毛などは濃くなる（硬毛化）という逆の現象が起きます。どちらも、毛包の毛乳頭細胞が持つII型5α-リダクターゼとアンドロゲンレセプターが関係する作用です。同じ毛でありながら逆の現象が何故起こるのかについては、毛乳頭細胞が送り出すシグナルの差と考えられています。

また、女性でも、男性型脱毛症になることがあり、更年期以後に目立って来ます。最近では女性型脱毛症という呼び方がされるようになってきていますが、男性と違い生え際は保たれ頭頂部中心に頭髪が薄くなります。



●円形脱毛症

コインのように円く脱毛する単発型が基本ですが、一カ所と限らず多発することもあります。ときに頭全体の毛が抜け、さらに全身の毛が抜けることもあります。円形脱毛症の脱毛部では、本当に毛が脱落して無くなっています。そこではどの毛穴でも毛包が縮んで休止期のようになっているのですが、その原因は成長期の毛包がリンパ球の攻撃を受けて壊されてしまうからです（下図）。どうして、自分のリンパ球が自分の毛包を攻撃してしまうのか、その理由は完全には分かっていませんが、患者さんの遺伝子を詳しく調べた結果、現在では毛包を標的にした自己免疫疾患だと考えられています。リンパ球の攻撃が抑えられれば元通りの毛が生えてきます。



●円形脱毛症の原因は？

精神的ストレスが誘因となって脱毛が始まってしまう場合もありますが、その他にも誘因があり得ますし、多くの場合は誘因がなくても始まってしまうのです。また、患者さんの2割程度に血縁の家族にも円形脱毛症があります。円形脱毛症は一定割合で必ずなる人がいて、また、なりやすい素質が遺伝しているようです。

●それぞれの治療法

AGA（男性型脱毛症）

薬物療法

- ミノキシジル（外用剤）
デュタステリド（内服薬）
フィナステリド（内服薬）

自毛移植



円形脱毛症

小範囲で初期の場合

薬物療法

- ステロイド、塩化カルプロニウム（外用剤）
グリチルリチン、セファランチン（内服薬）

広範囲で6ヶ月以上続いている場合

局所免疫療法

かぶれを起こす特殊な薬品を脱毛部に塗って、弱いかぶれの皮膚炎を繰り返し起こさせる治療法。1～2週に1回行います。有効率は60%以上で、現在最も有効な治療法。

<参考> 泌尿器のアンチエイジング AGAとテストステロン-見た目のアンチエイジング-